

エコハウス愛知・岐阜研究会として、長久手市の現場見学とセミナーに参加しました。そらどま+呼吸する家=「そらどまの家」と名付けられた住宅は、屋根裏の空気を床下へ送ったり、蓄熱床、壁や屋根の断熱・調湿材の使用、ふく射冷暖房などで室内環境をコントロールする、優れた技術だと思いました。この考え方は昔からある、かや葺き屋根や土壁、町家の土間空間からの発想ということでした。

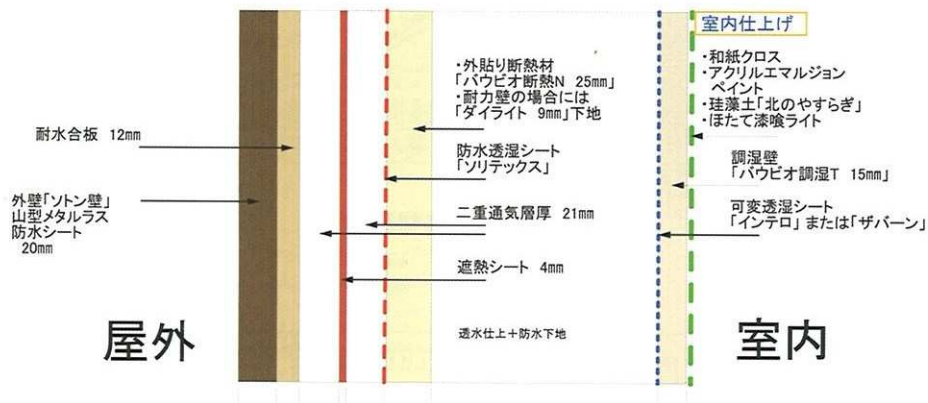
土地の気候風土によって仕様を変えていく必要があります、フランチャイズには不向きで、技術を閉じない（誰でも使える技術）とおっしゃっていたのが印象に残りました。

また、オーストリアのまちづくりの事例や、その地域経済を立て直すこと=設計行為という話や、住民が自分達で建てたスーパーマーケットの事例の紹介等がありました。

NPO 法人・福田弥生さんの講演内容は、湿気や臭いを透過して外部に放出する建材、バウビオを使ったグループホームの実例（岐阜県ガーデン柳津）の紹介でした。

夏の室内湿度が 40%（他物件での測定では 70%）まで下がって過ごしやすく、いつも消臭剤が手摺に設置してあるが、いらなくなったという事が効果として大きかったそうです。

また一般の方への体験型室内環境実験で、①バウビオ仕様②和風仕様（杉材等）③化学建材仕様のブースへ入ってもらったところ、良いと感じたのは①②③の順位だったとの事でした。子供達は自分の家の匂いに似ているということで③が多かったそうです。子供達が③を多く選択したことへの危惧を感じたとのことでした。一概には言えないとしても、化学建材を盲目的に使うことは恐ろしいことだと思いました。



呼吸する壁の詳細

以上